



Japan  
Food  
Research  
Laboratories

社外秘  
取扱注意

第 09038437001-01 号  
2010年(平成22年)02月17日

# 試験報告書

依頼者 株式会社 ピュアソン

財団法人

日本食品分析センター

東京都渋谷区元代々木町52番1号



検 体 ・弱酸性次亜塩素酸除菌水 ・パソカット80  
・ウイルゼロ ・29SA-L001

表 題 殺菌効果試験

2010年(平成22年)01月25日当センターに提出された上記検体について試験した結果をご報告いたします。

## 殺菌効果試験

### 1 依頼者

株式会社 ピュアソン

### 2 検 体

- ・弱酸性次亜塩素酸除菌水
- ・パソカット80
- ・ウイルゼロ
- ・29SA-L001

### 3 試験目的

検体のカンピロバクターに対する殺菌効果を試験する。

### 4 試験概要

検体にカンピロバクターの菌液を接種後(以下「試験液」という。), 室温で保存し, 3分後に試験液中の生菌数を測定した。

なお, あらかじめ予備試験を行い, 生菌数の測定方法について検討した。

### 5 試験結果

結果を表-1に示した。

なお, 試験液をSCDLP培地で10倍に希釈することにより, 検体の影響を受けずに生菌数の測定ができることを予備試験により確認した。

表-1 試験液1 ml当たりの生菌数測定結果

試験菌	対 象	生菌数 (/ml)	
		開始時*	3分後
カンピロ バクター	検 体	$1.1 \times 10^7$	<100
	対 照	$1.1 \times 10^7$	$1.3 \times 10^7$

<100：検出せず

対照：精製水

保存温度：室温

\* 菌液接種直後の対照の生菌数を測定し、開始時とした。

## 6 試験方法

### 1) 試験菌

*Campylobacter jejuni* subsp. *jejuni* ATCC 33560 (カンピロバクター)

### 2) 菌数測定用培地及び培養条件

5 %馬脱繊維血液加Blood Agar Base No.2(OXOID)，平板塗抹培養法，  
35 °C ± 1 °C，5日間微好気培養

### 3) 試験菌液の調製

試験菌を5 %馬脱繊維血液加Blood Agar Base No.2で35 °C ± 1 °C，2日間微好気培養した後，精製水に浮遊させ，菌数が $10^8 \sim 10^9$ /mlとなるように調製し，試験菌液とした。

### 4) 試験操作

検体10 mlに試験菌液を0.1 ml接種し，試験液とした。室温で保存し，3分後に試験液をSCDLP培地[日本製菓株式会社]で直ちに10倍に希釈し，試験液中の生菌数を菌数測定用培地を用いて測定した。

なお，対照として，精製水を用いて同様に試験し，開始時についても生菌数を測定した。

以 上